

令和4年度事業実績報告

令和 5年 4月 1日
わきはまこども園

1、こども園の運営

所在地 貝塚市脇浜3丁目31-8

定員 90名(2号・3号) 10名(1号)

3月在園児数 104名

(内訳) 0歳児 6名 1歳児 12名 2歳児 20名
3歳児 23名 4歳児 25名 5歳児 18名

職員数 園長 1名 副園長 1名 事務長 1名

主幹保育教諭 2名 保育教諭 19名

管理栄養士 1名 調理員 4名(㈱淀川食品所属)

事務員 1名

2、保育目標

- ・ 体も心も元気な子の育成
- ・ 思いやりのある子の育成

(1) [開園時間]

午前7時～午後7時(保護者の状況により伸縮させる。)

[基本保育時間](2号・3号)

午前9時～午後5時

午後6時～7時(延長料金徴収)(標準時間認定者)

午後5時～7時(延長料金徴収)(短時間認定者)

[基本教育時間](1号)

午前9時～午後1時

午後1時～午後3時半(希望者は保育時間)

午後3時半～午後5時(延長保育料金徴収)

(2) 保育・教育の内容

- ・園児の個性や成長を尊重し、理念、方針を基本とした保育・教育を心掛けた。
- ・体育や英語、習字、珠算の成果は、冬季の発表会のスライドにて発表し、平常は掲示やホームページでアピールした。
- ・年度内に保育参観週間を設定した。前年度のように感染症を理由とする延期もなく実施出来た。しかし感染症対策を徹底し、密を避けるスケジュールリングは意識した。
- ・令和3年度に引き続き、年長児が専門美術講師によるワークショップで年間通して保育と関連づけたストーリーの作品づくりを楽しみ、精神面での大きな成長のきっかけとなった。
- ・プール遊びに代わり、水遊びや泥遊びを実施した。理由としては①プール遊びによる乳幼児の事故が多く報告され、園にも水遊び等の際の注意指示が頻繁になった為。②プール遊びを実施することがコロナ等の感染リスクを高める可能性がゼロではないと判断した為。しかしながら、増築棟下がピロティになっており、夏場は日陰となって風も通る為、夏の遊びには最適な場所となった。ピロティ下では夕涼み会の代替として、数日に分けて父母の会主催で『おまつり遊び』（2年目）を行った。
- ・おおぞらこども園と合同の六甲への雪遊び（5歳児のお別れ遠足）、は中止となった。体調不良の園児が多かった為、長時間のバス移動は不可能と判断した。感染症が減少傾向となった3月に年長児がバスで天王寺動物園に遠足に行った。
- ・給食に関しては、海外での戦乱の影響等により食材料費高騰が収まらず、給食やおやつに関して、品質は保持しつつ、節約の共通認識を持ち、安全な給食、おやつ作りに努めた。園児に良くない影響が出ない様、管理栄養士や食育担当保育教諭による食育活動は盛んに行った。また光熱費高騰も大きな打撃となった。電気代に関しては感染症対策と熱中症予防等を並行して行うため、どうしても効率が悪くなることは仕方なかったが、部屋の電気はこまめ

に消す等の地道な節約を徹底した。給食食材費や光熱費に関して貝塚市からの補助金はあったが、前年度と同じ月を比較して赤字分を補助するという考え方のため、節約が仇となったふしも否めない。コロナ対策としての手洗いやうがいの徹底、マスクの着用等により、令和4年度は様々な感染者は昨年度に引き続き少なかったが、コロナウィルス感染症の影響が長期化（3年以上）している為、食に関する活動はコロナ禍前通りとはいかなかったが、夏や冬の食育に関する行事、バイキング給食は少しずつ再開した。梅収穫や梅ジュース作り、五感を刺激する食育の取り組み等、衛生管理を徹底した上で行った。

- ・ 亀など動物のお世話、植物や野菜の園芸活動等、自然との触れ合いを充実させることを重視した。
- ・ 二色ノ浜海岸のクリーンアップ活動や芋掘りによる地域の方々との交流も中止となった。
- ・ 夏には貝塚いぶき作業所さんのご厚意により年長児が陶芸の絵付けを体験し、園内で作品を展示した。
- ・ 8月に3歳以上の園児が参加予定であった、脇浜町会主催の夏祭りは中止となった。
- ・ 1月には十日戎の日に福参りをさせて頂き、地元根付く日本の伝統行事に触れる機会をいただいた。
- ・ 3年前まで毎年行われていた、西校区福祉委員会主催の独居の高齢の方々とのいきいきランチの会は令和4年度も中止となった。
- ・ 中学生の職業体験や高校生の職業体験は受け入れ側、送る側共実施しが難しく中止となった。
- ・ 短期大学の実習生を6月に2名、7月に1名、8月に1名受け入れた。2月には1名、大学生のボランティアを受け入れた。
- ・ 新卒採用活動を行い、法人で3名を採用した。

- ・引き続き処遇改善加算を受ける中で、可能な範囲でキャリアアップ研修を受講した。コロナの影響が少しずつなくなり、対面での研修も徐々に増えてきた。オンライン研修と対面の研修は半々くらいの割合で受講した。幼児保育研修1名、保護者支援研修1名、食育研修1名、マネジメント研修1名、障がい児研修2名が受講し、認定を受けた。コロナによる影響はあったが、新たな研修のあり方を考えるきっかけとなった。
- ・保育士の処遇改善加算ⅠとⅡ、更に4年度も特例事業費補助金も実施された。
- ・保育士の処遇改善加算Ⅰは例年通り3月に手当として支給した。
- ・園の方針に則り、各クラス内での保育のみにとどまらず、各自、任された担当業務を遂行し、皆で力を合わせた業務を実践する事が出来た。
- ・令和4年度は前年度と比較し、コロナウィルスの園内での流行は減ったが、ゴールデンウィークや地域のふとん太鼓祭りの後、お盆、冬休みの時期は感染者が増えた。そういった時期には職員や職員の家族の感染等による長期欠席での現場人員の不足に悩まされた。令和4年度は感染者や濃厚接触者の待機期間が短縮されたとは言え、慢性的且つ突発的な人手不足、日々の判断が大きなストレスとなつてのしかかった。園児の年齢ごとのマスク対応（職員が顔を見せることで園児との情緒的な交流を図るべきであるが、感染症や熱中症対策とのバランス等をどうするか等）まだまだ課題は多い。

(3) 保育・教育担当

- ・ 担当保育教諭を定め、園長は総括指揮をとった。
- ・ 事務長は運営事務に関する総指揮をとった。
- ・ 職場研修は密を避けながら推進した。
- ・ 管理栄養士、調理員の配置で、子どもの安全、健康づくりを図った。

3、 保育・教育設備

園舎 . . . 前年度と同様、美化に努めた。

- ◎ピロティ下の水はけ促進の為、排水マス用樹脂製格子蓋、3か所工事。
内水による浸水被害のリスクも回避した。
- ◎駐車場側溝蓋のガタツキ修繕工事。(6月に側溝のグレーチングが外れ、
保護者の自動車に破損する事故が2度起きた為)
- ◎遊具や砂場の保守点検業務について(株)ビティへ引き続き依頼した。

備品 (購入した物)

- 乳児運動遊び用室内マット
- 調理室内の劣化、破損した分の食器類、グリストラップのゴミ受け
- 園児用5連ロッカー2台(2歳児用と4歳児用)
- 園児用椅子3台(2歳児用)
- 園児用テーブル付椅子2台(乳児用)
- 園児用二人掛け机3台(4歳児用)
- 電動避難車のバッテリー
- エントランス用マット計3枚
- ハンドウッドブロック(楽器)3個
- 跳び箱8段一式(父母の会より補助)
- 空気清浄機付きエアコン1台(乳児室用)(コロナ補助金)
- 絵具等洗い用ステンレス台1台
- 芝生に置く遊具2個(犬と猫)
- 換気扇3台(調乳室と1、2階トイレ)
- 裏門インターフォン修理

4、 資金の計画

施設型給付費収入と補助金収入をもって収支均衡を図った。

5、 その他

引き続きインターネット関連の業務、安全防犯対策として機械警備、給食会社への委託を行う。

以上

わきはまこども園
園長 山田尚子